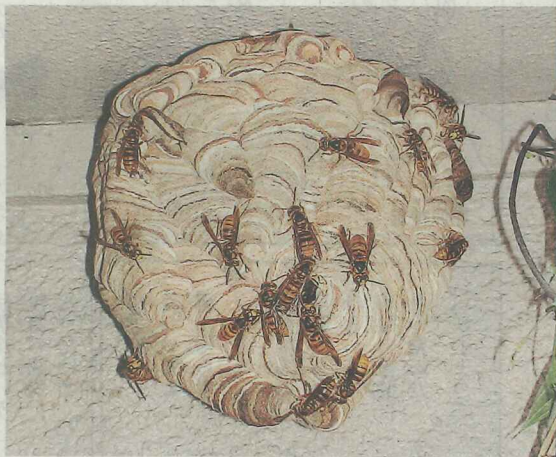




スズメバチ 特別警戒の夏

各地で猛暑が本格化し、秋にかけてスズメバチへの注意が必要な季節となる。今年は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う外出自粛の影響で、街中に人目に付かないまま残った巣が多くあることに加え、長梅雨によって巣が小型化して見つけにくくなっているという。専門家は「思いもよらない場所でハチに刺されないために、正しい対策を身につけてほしい」と注意を呼び掛けている。(奥村圭吾、天田優里)



①巣の材料を集めるキイロスズメバチ
②キイロスズメバチの巣=いずれも小野正人教授提供

刺されないために

- 黒っぽい色の服装は避ける
- 香水はつけない
- 雑木林に入る際は注意する

刺されそうになったら

- 騒いだり、手で追い払わない
- 白っぽい色の布などで頭や肌を隠す
- ゆっくり後ずさりして避難する

刺された場合

- 冷水で患部を洗い流す
- 皮膚をつまんで毒素を出す
- じんま疹など全身症状が出たら、救急車を呼ぶか病院を受診する

※小野教授への取材に基づく

東京都江戸川区の幼稚園で三日夜、園庭で遊んでいた四歳の男児二人と、四十代の男性職員一人がスズメバチに刺された。三人は救急車で病院に搬送されたが、軽いけがで済んだ。

さらに長梅雨と豪雨が重なり、

警視庁や東京消防庁によると、園庭にある木に十五センチほどの巣があり、それに気付いた園児が「虫がいる」と木を揺らしたところ、ハチが攻撃してきたという。園は、巣の存在に気付いていなかったとみられ、巣は救急隊員が撤去した。

街中に未発見の巣残る?

玉川大(東京都町田市)の小野正人教授(応用昆虫学)によると、都会で生息数が増えているキイロスズメバチなどは、春から巣を作り始め、秋に最も大きくなる。通常、でき始めの巣を発見した人や連絡を受けた管理者が人知れず撤去しているが、今年は外出する人が減った影響で、誰にも気付かれずに残った巣が多いという。

スズメバチの巣作りが邪魔されたことも危険な要因と指摘する。小野教授は「小型で目につきにくい巣が、公園の茂みなどに隠れている可能性がある」と警鐘を鳴らす。

ハチの毒針に刺されると、「アナフィラキシーショック」というアレルギー反応を引き起こすことがある。呼吸困難や吐き気などの全身症状が出て、数十分で意識を失ったり、心肺停止したりする危険性がある。

外出自粛・長梅雨

厚生労働省の人口動態統計によると、全国でスズメバチなどのハチに刺されたことによる死者は二〇一八年に十二人、一七年十三人、一六年十九人。